

地域と農業を結ぶ、ふれあいと絆の発信源

Agresh

2021. VOLUME.135

6

あぐれっしゅ



おいしいイチゴで
みんなの笑顔が見たい!

特集
JAと農家をつなぐ
〜担い手パワーアップ・アクション始動〜



JAは地域社会の
課題解決とともに
SDGsの達成へ
貢献しています。

© よい夜プロジェクト

腕 じ ま ん

地域じまんのモノ語り



管内から2頭が「エクセレント牛」獲得
～乳牛審査で最高位の称号～

(一社)日本ホルスタイン登録協会が4月下旬に青森県内で行った令和3年度(上期)牛群審査で、横浜町支店管内の斗米伸也さんが飼養する「STF エビデール サンチェス ジニー」が91点の最高得点、斗米晃二さんの「TMI アイオン メモリー」が90点と高い評価を受けました。90点以上の牛に与えられる最高位の称号「エクセレント」を獲得。二人同時の称号獲得はJA管内で初の快挙です。

同協会が行う体型審査は、体貌や骨格、肢蹄乳器などを中心に23項目をチェック。今回は県内の乳牛171頭が審査を受けました。

受賞者から喜びの声



▲最得点91点を獲得した「STF エビデール サンチェス ジニー」(9歳7ヵ月・産次数7産)と伸也さんご夫妻。



▲90点を獲得した「TMI アイオン メモリー」(8歳6ヵ月・産次数5産)と晃二さんご家族。

斗米伸也さん、酪農歴22年。
乳牛84頭(うち、経産牛50頭)

今回受賞の牛は草をよく食べるので、10歳近い年齢でも体型や能力を維持できていると思います。共進会への参加や体型改良は、酪農をやっていく上でモチベーションの向上につながっています。

斗米晃二さん、酪農歴40年。
乳牛97頭(うち、経産牛55頭)

「エクセレント」獲得は長年の夢でした。乳房炎にさせないよう、産次数を重ねて改良を進めるのに苦労しました。今後も称号獲得に向けて頑張ります。

公式Facebook
JA十和田おいらせ

令和3年6月9日発行 ■発行/十和田おいらせ農業協同組合 〒034-0081 青森県十和田市西十三丁目4-28 TEL.0176-23-0311 FAX.0176-24-1829
■編集/JA十和田おいらせ 広報編集委員会 ■公式ホームページ <http://www.jatowada-o.or.jp> ■E-mail/sozomu@jatowada-o.or.jp ■印刷/アート印刷



食べた瞬間笑顔になる
安全安心の
イチゴ生産を

表紙紹介

● シリーズ 日本の農業に生きる後継者 Vol.104
けいしょうびと



むつ支店管内
おおむろ
大室 涼さん(28)

6月から収穫が始まるイチゴの成長を見守りつつ、新しく伸びてくるランナー(ほふく枝)や弱小花房を摘み取りし、充実した株づくりに精を出す。

栽培に取り組んで3年目。主な品種は「すずあかね」で112坪のハウス6棟で栽培する。「今年は苗も順調に育っている。イチゴ経営を軌道に乗せて、周年栽培で安定供給を目指したい」と意気込む。

徐々に膨らんだ就農への想い

県内の高校を卒業後、海上自衛官としてヘリコプターに乗り、国内の防衛を仕事としていた。当初、農業への興味はなかったが、仲卸会社に勤める父親からの話や下北の農業に関するテレビ、新聞を目にするうちに「自分でイチゴを栽培してみたい」の気持ちが膨らんだ。地元農家での研修を経て、2018年の春に就農した。

昨年は、病害虫の影響で収量は上がらなかったが「やってきたことへの後悔はない。次につなげよう」と持ち前の向上心、忍耐力で前を向く。

管理しやすい環境の整備へ

繁忙期には従業員5人を雇う。収穫作業は長時間、腰を曲げて行うため、6棟あるうち2棟の高設栽培に今年初めて挑戦した。高さ1m程のベンチ上に栽培ベッドを配置する。「体への負担も減り、作業がしやすくなった。イチゴ狩りを体験しに来てくれる地域の子どもたちも、より楽しめる空間になると思う」と微笑む。今後は全てのハウスを高設栽培にすることを目標とする。

作業手順の確立と安定供給に向けて

かん水作業などは自動化しているが、収穫時期近くなると、自分で食味を確かめながら、こまめにかん水量を調整する。試行錯誤を繰り返しながら、自分の納得がいく商品に近づけていく。「おいしい」の一言が一番うれしく、励みになる。食べた瞬間に笑顔になる安全安心のイチゴ生産を目指す。そして作業手順を早く確立させて、ビニールハウスを増やし安定供給につなげたい」と夢を描く。

プロフィール…おおむろ りょう
むつ市奥内地区

組合員=本人
家族構成:妻、子(2歳)
農業経営:イチゴ112坪のハウス6棟

告知版

総務部

第11回通常総代会開催

開催日時: 令和3年6月25日(金)
受付開始: 午前9時 / 開会 午前10時
開催場所: JA本店3階大会議室

※当日は総代会資料をご持参願います。
※新型コロナウイルス感染症防止のため、書面議決による議決権の行使をお願いします。ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

共済部

JA共済から新たなつながりが生まれます。
登録されるのは、あなたにとってこれからの安心。
ハロー!Webマイページ、一緒にはじめませんか?



登録するだけで豪華賞品が当たる!!
最大3回、当選のチャンス!
対象期間
2022年3月31日まで

- ポイント① ご契約内容の確認がかんたんに!
- ポイント② 住所・電話番号の変更がWeb上の
お手続きで完結!

詳しくはこちらから



金融部

7月
ローン相談会
(本支店のご案内)

開催時間
9:00~15:00
農業機械・農業に関わる
設備資金等の相談も承ります。

開催日	相談会場
10日(土)	むつ
17日(土)	本店、大深内・藤坂 ももしし・下田・上北 十和田湖・七戸・横浜町
24日(土)	むつ

当JAで年金を受給されているお客さまへ



日ごろの感謝を込めて、心ばかりの記念品を進呈します。まだ受け取りをされていない方は、引換券をご持参のうえJA貯金窓口までお越しください。
今年度の年金受給者プレゼントは宇野千代「花あかり」シリーズの桜柄「深口ボウル2客」です。

もぐり contents
あぐれっしゅ vol.135 6 (水無月・みなづき)
特集 4~5p
JAと農家をつなぐ
~担い手パワーアップ・アクション始動~
继承人 3p
NEWS&TOPIC
地域の話 6~8p
あぐれっしゅ情報① 9p
優績JA表彰
あぐれっしゅ情報② 10p
農作業をもっと快適に
夏のおすすめ商品を紹介
あぐれっしゅ情報③ 11p
採用情報
かだあ〜れ情報 12p
ふれあい広場
頭の体操 パズル? 13p
Information 14~15p

腕じまん
地域じまんのモノ語り 20p
管内から2頭が「エクセレント牛」獲得
〜乳牛審査で最高位の称号〜

JAの概況 令和3年6月1日現在
正組合員数/6,335人
准組合員数/5,239人
役員数/26人
職員数(准職・嘱託含)/279人
貯金高/823億1,279万円
貸出高/178億 338万円

JAネットバンク
JAネットバンクが便利です!
いつでも、どこでも、手軽で便利!! インターネットにアクセスするだけで、振込や税金・公共料金支払い等のさまざまな取引ができるサービスです。

窓口がもう開いていないけど、今日中に振込しておきたい...
こんな時に!
税金・公共料金の支払いでコンビニへ行くのが面倒...
JAネットバンクの申込はこちらから
<https://www.jabank.jp/>
JAネットバンク

※「定期貯金機能」「各種ローン機能」「カードローン機能」は、JAや取引条件によってお取り扱いできない場合や、一部機能に制限を設けている場合があります。※「マネーフォワード(家計簿アプリ)」は、株式会社マネーフォワードが運営しております。JAバンクの運営ではありません。

組合員の声から実践した支援対策等

【ニンニク作業機械の導入助成】



声) 作業機械の導入に助成してほしい
産地拡大対策事業として種苗費助成や作業機械導入の助成を実施。

【自然災害の被害調査】



声) 災害時、復旧に対する支援をしてほしい
被害調査をし、行政に報告と支援要請を行ったほか、再建に向けた独自の支援対策を講じた。

【若手農業者パワーアップ大会】



声) 同世代での交流や情報交換の機会がほしい
若手農業者パワーアップ大会を開催。管内の20～40代の若手後継者ら300人が集まり士気を高める。(令和元年)

【若手農業者向け育成塾】



声) 栽培技術の向上を目指したい
若手農業者の育成塾を開講。営農指導員のほか、ベテラン生産者が栽培のノウハウを教える。

【婚活イベント】



声) パートナー探しに取り組んでほしい
青年部と協力し、体験型の婚活イベントを開催。平成31年には成婚第1号が誕生する。

【生産コストの低減】



声) 生産資材を安くしてほしい
購買部門と連携し、オーダーメイド肥料の提案、フレコンでの供給。



生産者 になにく専門部長 戸館 快之さん

私のほ場は試験区ということもあり、指導員が定期的に巡回してくれます。何度も顔を合わせることで信頼の構築につながっていると感じます。今後JAに求めることは、指導力の強化とJA事業についての情報提供です。栽培管理のことやJAの取り組みなどは周知から聞いて知ることが多いので、最新の情報をその都度伝えてくれたら嬉しいです。

担い手パワーアップ・アクション本部長 営農経済担当常務理事 小向 豊

高齢化・後継者不足に伴う耕作面積の減少や自然災害などの発生に加え、昨年はコロナ禍で日本の市場動向、経済動向は短期的に大きく変動しました。そういった状況を素早く生産者につなぎ、御用をお聞きしながら、対策を立てていくことが重要と考えます。役職員一丸となり、生産者の所得向上とJAの販売事業拡大に向けて皆様のもとへ伺いますので、小さな事でも気軽に相談していただきたいです。

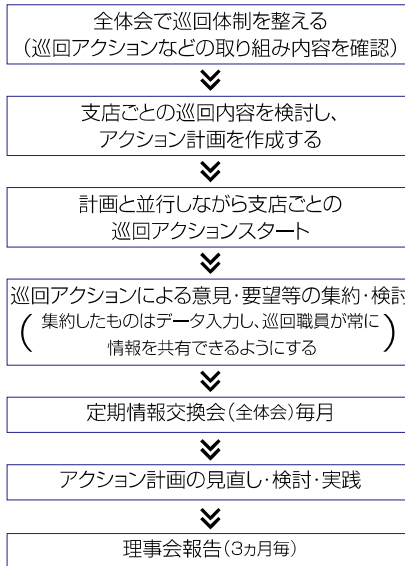


※撮影のためマスクを外しております

当JAでは2012年より、農家所得の増大と担い手育成を目指し、出向く指導体制を強化する「担い手パワーアップ・アクション」を展開しています。支店長や営農担当職員らが管内農家を巡回し、農家の意見や要望を吸い上げ、今後の事業展開に反映させる取り組みです。

今回の特集では、取り組み内容や組合員の声から実現した支援対策などの一部を紹介します。

取り組みの流れ



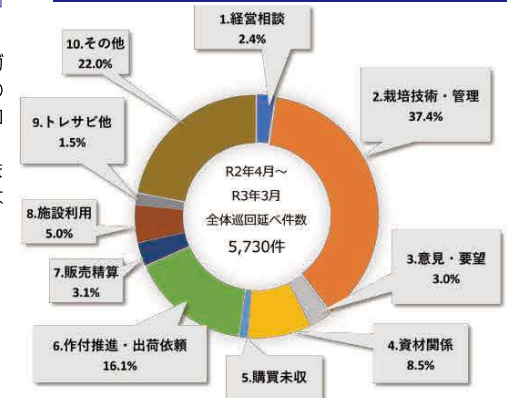
「担い手パワーアップ・アクション」の目的

- ①担い手農家・・・農家が抱える問題および課題を吸い上げ、事案の解決に向けての相談活動を行い、経営改善等を支援する。
- ②大規模農家・・・定期的な訪問で相談・意見・要望を伺い、事業に反映させて農家の所得増大につなげる。
- ③事業未利用者・・・JAの優位性や強みを理解してもらい、総合的なつながりづくりを勧め、取り組みの拡大を図る。

巡回体制

7支店1事業所、1営農センターの支店長らをチームリーダーに営農指導員を中心に3～7人のチーム構成。令和3年度は計43人の巡回体制で営農経済担当常務理事が本部長を務め、指導やさい部指導課に事務局を置く。

令和2年度 内容別件数比率(全体)



巡回内容は、水稻・畑作の栽培管理指導、ナガイモ・ゴボウの集荷推進、産地拡大対策事業の周知及び作付推進、ニンニク、ニンジン、ダイコンの出荷奨励などを実践しています。

令和2年度はコロナ禍で巡回件数は減少しましたが、主に栽培技術や管理についての相談などに応じました。

令和2年度 巡回件数実績 ()内は前年度実績

累計件数: 5,730件 (6,167件)

内大規模農家: 1,642件 (1,924件)

内未利用者: 124件 (70件)

8 持続可能な生産 12 持続可能な消費 **ナガイモの催芽種子供給**
～生育促進で腐敗防ぐ～

ナガイモの催芽種子の配付が5月中旬、七戸支店の野菜集出荷場と十和田市農業技術センターで行われ、注文農家29戸に作付面積2.4%にあたる計8.5トンを提供しました。

催芽種子は、あらかじめ芽出して植え付けすることで、初期生育を促進し、地中での腐敗を防ぐなどの効果が期待できます。農家の要望によって、当JA野菜振興会ながいも専門部会で育成したウイルスフリー種子を芽出した切り芋と、催芽のみの依頼と2通りに対応。

委託農家からは「萌芽揃いがよく、品質が向上した」「収量が増えた」などの声が聞かれています。



▲芽出し種芋を受け取る生産農家

2 持続可能な生産 13 持続可能な消費 **種子採種ほ場で田植え盛ん**
～良質苗で例年並のスタート～

管内では5月中旬から6月上旬にかけて田植え作業が盛んに行われました。播種後の早朝の低温が心配されましたが、育苗は順調に進み、ほぼ例年並のスタートとなりました。

十和田市七郷地区にある、水稻種子採種ほ場で35年以上種子生産をする川村進一さんは「今年の苗は今まで一番良い出来だ。今後は天候を注視しながら適切な水管理をして、収穫まで順調に育てたい」と田植え作業に精を出していました。



▲田植え作業に精を出す川村さん

4 持続可能な生産 11 持続可能な消費 **町特産「紫黒米」の**
植え付け体験
～東北町立上北小学校
紫黒米田植え～

東北町立上北小学校の5年生61人は5月24日、町内の水田10アールで水稲もち米「紫黒米」の苗植えを体験しました。水田では、足を取られ尻もちをつきながら田植えを楽しむ児童の歓声が響きました。10月中旬には、収穫体験も行う予定です。

JA共済の地域貢献活動事業を活用して、町内の米農家やJA職員らが米づくりの一年を支援します。作業を終えた児童からは「友達と一緒に作業は楽しい」「初めての田植えは足が取られて大変だった」「自分で植えた苗が成長するのが楽しみ」との声が聞かれました。



▲田植えを楽しむ児童

NEWS & TOPIC
地域の話題

JA事業におけるSDGsの取り組みです。
SDGs(エスディーゼス)とは、人類が直面している「貧困」や「飢餓」、「環境」などの課題を認識し、「持続可能な世界」実現のために2015年9月の国連サミットにおいて採択された、開発途上国だけでなく、先進国も含めた全世界共通の取り組み目標です。17の目標を掲げ、2030年までの達成を目指して世界各国で取り組みが進められています。

2 持続可能な生産 12 持続可能な消費 **ダイコン12億円超えを**
～首都圏向け初出荷～

5月中旬からもいし、下田の2支店管内でダイコンの収穫が始まりました。雪解けが早く、植え付け時の土壌状態が良かったことや、3月の平均気温が平年より高く推移したことで作柄は良く品質が安定しています。

もいし野菜センターで5月27日に行った出荷式には運送会社の関係者、JA役員ら50人が集まり、農家代表者らのテープカットで安全運搬を祈願しました。

JAでは高品質を維持しつつ定時定量安定出荷に努め、管内全体の取扱高12億円を目指します。



▲選別作業が盛んに行われているもいし野菜センター

1 持続可能な生産 13 持続可能な消費 **高温対策しっかりと**
～ピーマン現地講習会～

十和田市のピーマン農家、加賀光雄さんほ場で5月28日、苗定植後の現地講習会を開きました。参加農家30人は、トンネル内の温度管理や整枝のポイントなどについて学びました。

管内の苗定植は5月中旬から下旬にかけて行われました。ピーマンを10アール作付けする加賀きや子さんは「天候不順による定植のずれ込みで、若干成長が遅れている。生育に合わせた管理で良品質、多収生産につなげたい」と話しました。



▲栽培について学ぶ生産者と収穫間近のピーマン(5/28現在)

1 持続可能な生産 13 持続可能な消費 **うま味甘味凝縮の**
「一球入魂かぼちゃ」定植
～強風対策しっかりと～

むつ支店管内で5月下旬、特産「一球入魂かぼちゃ」の定植が盛んに行われました。朝夕の急激な寒暖差の影響もなく、苗の生育は順調に進みました。JAでは今後、定植後の強風対策の強化を図るよう指導していきます。

一球入魂かぼちゃ副部会長の浜田昭彦さんは同月18日、1回目播種分3,000本の定植苗の最終チェックをしました。浜田さんは「今年は暖かく、苗の成長も良い。無事に収穫を迎え、1株1個実らせておいしさを多くの人に味わってもらえるよう管理に努めます」と意気込んでいました。



▲苗の最終チェックをする浜田さん